

## 光徳寺蔵『黒谷聖人御消息』について

伊藤 真宏

### 一 はじめに

大阪府柏原市の真宗大谷派光徳寺は、大阪でも屈指の名刹である。蓮如によって大坂に本願寺が築かれ、完成したのは明応六年（一四九七）。山科本願寺が焼かれ、親鸞御影とともに本願寺第十世証如が、その大坂本願寺（石山本願寺）に入るのが天文二年（一五三三）。それから、織田信長と本願寺のいわゆる石山合戦が終わる天正八年（一五八〇）まで、つまり本願寺が大坂を退くまでは、大坂本願寺が本山となっていた。本願寺法主が大坂にいたときに、光徳寺住職はそばに支坊を構え、ときの法主の側近として侍したという。ために光徳寺には、真宗ゆかりの重要な文書が多く所蔵されている。

今回紹介する『黒谷聖人御消息』（以下、『御消息』）は題の如く、法然（一一三三～一二二二）の消息である。手紙二編を一冊にまとめた写本であるが、古い写本と思われるにもかかわらず、真宗寺院所蔵の法然文書が真宗の研究機関から顧みられることが少なく、また浄土宗の研究機関も真宗寺院所蔵の文書の中に法然の文書があることを知らぬわけではなかったようだが、その調査を怠ってきた。この写本はそういう法然と親鸞の研究の狭間にある

ものといえよう。この史料を公表して諸賢の研究に委ねることも意義があると思われる。

## 二 『黒谷聖人御消息』と『法然聖人御詞』

『御消息』が光徳寺に所蔵されていることは、既に『古写古本真宗聖教現存目録』（以下、真宗目録）に記され、藤堂祐範『浄土教稀観書目』（以下、藤堂目録）にも紹介されている。藤堂目録には、真宗寺院に所蔵される文書については真宗目録に依ったことが明記され、記述内容からも真宗目録を継承していることがわかり、「稀観書」と見なしながらも現物を直接には調査していないことがわかる。

真宗目録によると、室町時代末期の粘葉綴りの写本で、紙数が二十九葉。奥書はなく、内容については「和語燈十三巻中ノ ○九條ノ殿下ノキタノマントコロへ進セラル御返事 ○カマクラノ二品禪尼ヨリ一仏ノ功德ヲタツネマフサレタリケル御返事 ○津戸ノ三郎入道ヘツカハス御返事 ノ三通ト内容ヲ類似スル異本ナリ」とある。

現物の『御消息』は一見して古い写本とわかり、非常に傷んでいるが、本文への侵食は幸いにもあまりない。真宗目録に報告される通りの装丁で、紙数も二十九葉。法量、紙質とともに真宗目録で調査された当時のままを留めているようである。しかし内容は、「九條ノ殿下ノキタノマントコロへ進セラル、御返事」と「カマクラノ二品禪尼ヨリ念仏ノ功德ヲタツネマフサレタリケル御返事」の二通の手紙を一冊にまとめたものであり、「津戸ノ三郎入道ヘツカハス御返事」がない。おそらくこれは「カマクラ」と「津戸」が内容的にパラレルであり、そのことを意図してのコメントと思われる。しかしながら、同内容とはいえ、全く同じではなく、『和語燈録』も個別に紹介しているので、別々のものとして扱う必要がある。その意味で真宗目録とそれを受ける藤堂目録の該当記述は訂正さ

れるべきことを指摘しておきたい。

さて一見して古い写本であることはわかるとしても、いったいいつごろの写本なのか。奥書がなく、真宗目録でいう室町時代末期との限定は根拠があるのだろうか。その判断に有効なのが、光徳寺所蔵『法然聖人御詞』（以下、『御詞』）である。これは『法然上人研究』第六号に紹介したので、参照していただきたい。ここでは『御消息』と『御詞』との関連のみを考察することにする。

『御詞』は、いわゆる「或人念仏之不審聖人ニ奉問次第」「浄土宗大意」「四種往生事」を一冊にまとめたもので、親鸞書写による『西方指南抄』の下本の最後二本と下末の最初一本をそのまま抄出した形態の写本である。奥書冒頭に細字で「本云」とあり、続いて明応五年（一四九六）正月十一日に書写し終わったことが記され、時に八十二歳であり「御判」とある。明応五年に八十二歳というと、正に蓮如（一四一五―一四九九）が該当し、光徳寺と大坂本願寺の関係から考えてもこの写本が蓮如伝承本であることはまちがいない。また原表装とみられる表紙に外題とともに「釈乗敬」とあり、この写本自体の書写者が釈乗敬であると判断できる。要するに『御詞』は蓮如の写本を釈乗敬が転写したものである。

さてこの『御詞』と『御消息』が非常に類似している。影印を見比べれば理解していただけると思われるが、丁寧な筆致や使用する漢字の形態、写本の字数行数、装丁の具合などを総合的にみて、『御消息』も釈乗敬の手になることは間違いあるまい。もとより筆者にその筆跡を鑑定する能力は皆無であり、『御消息』に奥書がない以上、断定は許されないが、おそらく真宗目録がこの写本を室町時代末期としたのは、装丁や書写状態、古い字体といった理由の他に、『御詞』との類似点も考慮されていると思われる。

釈乗敬は光徳寺第十一世の法灯継承者であり、元和七年（一六二一）に『松谷伝承記』という光徳寺の歴史を著

し、大坂に支坊を建立した由来などを記録してまとめるなど、歴史的な見識のある人物である。寛永二十年（一六四三）に八十一歳で示寂しており、永禄六年（一五六三）に生まれていることになる。写本の書写年代が、室町時代末期から江戸時代初期に限定される由縁である。

### 三 『和語燈録』と『黒谷聖人御消息』

『御消息』が「九条ノ殿下ノキタノマントコロへ進セラル、御返事」（以下「九条」と）「カマクラノ二品禪尼ヨリ念仏ノ功德ヲタツネマフサレタリケル御返事」（以下「カマクラ」）を一冊に綴じた写本であることは既に紹介したが、これは『和語燈録』の第三巻の最初二本を抄出する形をとる。『和語燈録』は、以下数編にわたり手紙を載録しているが、はじめに登場するのがこれら二本である。同様の手紙は『西方指南抄』にもあるが、「九条」は下末、「カマクラ」は中末にばらばらに編入されている。よつて『御消息』が『和語燈録』からの書写であると考えるのが妥当であろう。これは本文を校訂してみても実証されるであろうが詳細は稿を改めたい。しかしそうであるならば、この『御消息』は次の点で重要になってくる。

『和語燈録』は、法然の語録をまとめた『黒谷上人語燈録』の中、和語のものばかりをまとめたものを指すが、本編五巻、拾遺二巻の全七巻がそろっているのは、元亨元年（一二三二）版本、寛永二十年（一六四二）版本、正徳五年（一七一五）版本の三本である。さらに安居院西法寺所蔵の残欠本で鎌倉時代末期の写本が存在する（以下「西法寺本」）。この「西法寺本」は、『和語燈録』の編者望西楼了慧（一二三四～一三三〇、一説一三三一寂）の自筆本の模写ともいわれ、元亨版に先行するという（中野正明『法然遺文の基礎的研究』）。内容は「鎌倉二位禪尼

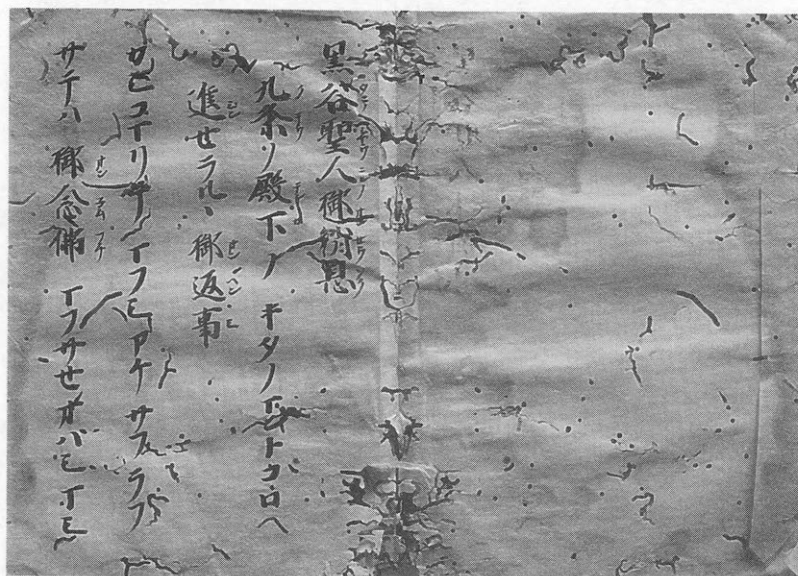
へ進する御返事」の末尾と「要義問答」全文、「大胡太郎実秀へ遣はす御返事」の最初部分が一冊にされた、正に『和語燈録』の三巻目の残欠本なのである。「西法寺本」の特徴は漢字片仮名交じりの文体で、元亨版の漢字平仮名交じりの文体とは趣を異にする。華頂短期大学教授の中野正明は、「西法寺本」が、漢字中心の文章の送り仮名が本文に混入して形成される過程のものとし、数度の転写の次第で和文の元亨版のようになったとみる。佛敎大学教授の岸一英は、寛永版成立の過程に注目し、寛永版も「西法寺本」も漢字片仮名交じりであることから、『和語燈録』に平仮名系のもとの片仮名系のものが存在するのではないかと予測している。『御消息』は漢字片仮名交じりであり、しかも寛永版に先行する写本であることから、岸の予測を補強する一つとなるだろう。『西方指南抄』の影響も視野に入れた、『和語燈録』の成立過程と流伝に關しての研究がさらに進んでいくことを期待したい。以下に翻刻を試みておく。

#### 【付記】

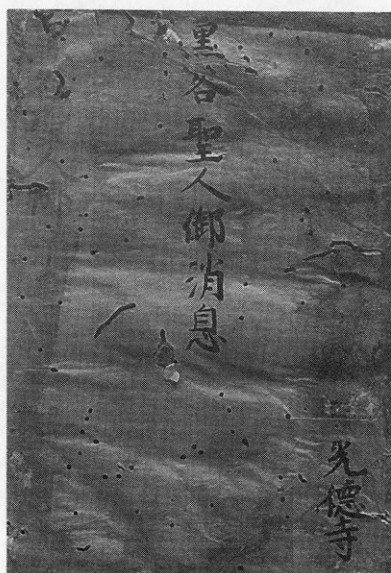
近年『和語燈録』全七巻の写本が、西村岡紹の手で発見された（西村旧蔵本）。またお茶の水図書館所蔵の『和語燈録』が、全七巻の写本で、西村旧蔵本と親密であることが岸一英により確認されている。現在これらの全体像については調査中であるので、本稿では触れていない。以下の雑誌で紹介されているので参照されたい。（『仏敎学会紀要』第二号所収、西村岡紹稿。平成六年三月、佛敎大学仏敎学会刊。『常照』四十一号所収、岸一英稿。平成八年十月、佛敎大学図書館刊。）

【凡例】

- 一、翻刻は、努めて原典に忠実であることを旨とした。ただし漢字は古体をとどめた異体字が多いので、便宜上通行の字体に改めた。
- 二、改行、改丁、共に原典通りである。改丁を「」で示し、丁数を付しておく。
- 一、句読点は付していない。
- 一、原典に欠損のある場合は、字数を予測して、□で表示した。



光徳寺蔵『黒谷聖人御消息』について



表紙

黒谷聖人御消息  
 九条ノ殿下ノキタノマントコロヘ  
 進セラル、御返事  
 カシコマリテマフシアケサフラフ  
 サテハ御念仏マフサセオハシマシ

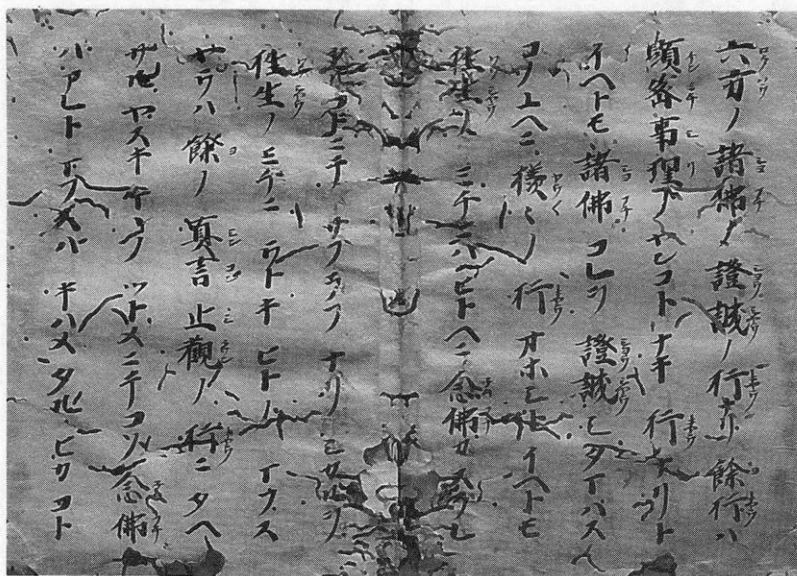
一才

サフラフランキソヨニラヒテサ  
 ムエトヨニ往生ノ行ニハ念佛  
 メテタキコトニチサフラフナリソ  
 ヌハハ弥陀ノ本願ノ行ナレハナリ  
 余行ハソレ真言止観ノタカキ  
 行ナリトイヘトモ弥陀ノ本願ニア  
 ラスマタ念佛ハ釈迦如来ノ付属  
 ノ行ナリ余行ハマコトニ定散両門  
 ノメテタキ行ナリトイヘトモ  
 コレヲ付属シタマハスマタ念佛ハ

サフラフランコソヨニウレシクサフ  
 ラヘマコトニ往生ノ行ニハ念佛  
 メテタキコトニチサフラフナリソ  
 ヌハハ弥陀ノ本願ノ行ナレハナリ  
 余行ハソレ真言止観ノタカキ

行ナリトイヘトモ弥陀ノ本願ニア  
 ラスマタ念佛ハ釈迦如来ノ付属  
 ノ行ナリ余行ハマコトニ定散両門  
 ノメテタキ行ナリトイヘトモ  
 コレヲ付属シタマハスマタ念佛ハ



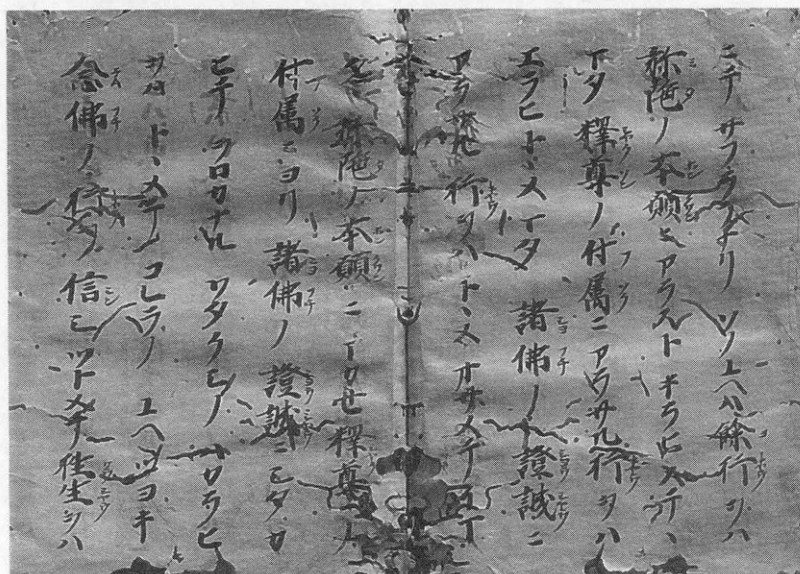


六方ノ諸佛ノ證誠ノ行ナリ余行ハ  
 願密事理ノヤンコトナキ行ナリト  
 イヘトモ諸佛コレヲ證誠シタマハス  
 コノユヘニ様々ノ行オホシトイヘトモ  
 往生ノミチニハヒトヘニ念仏カスケレ

二ウ

タルコトニテサフラフナリシカルラ  
 往生ノミチニウトキヒトノマフス  
 ヤウハ余ノ真言止觀ノ行ニタヘ  
 サルヤスキマノツトメニテコソ念仏  
 ハアレトマフスハキハメタルヒカコト

三オ

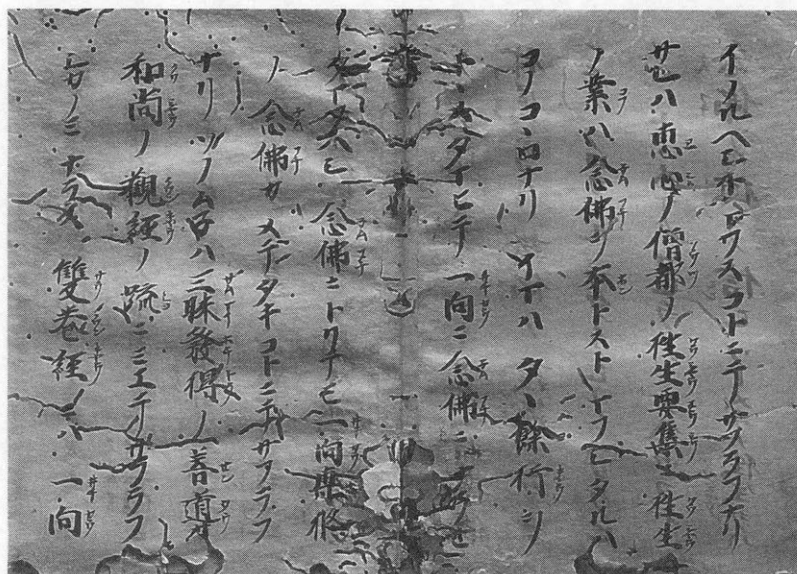


ニテサフラフナリソノユヘハ余行ヲハ  
 弥陀ノ本願ニアラストキラヒステ、  
 マタ釈尊ノ付属ニアラサル行ヲハ  
 エラヒト、メマタ諸仏ノ證誠ニ  
 アラサル行ヲハト、メオサメテイマ

三ウ

タ、弥陀ノ本願ニマカセ釈尊ノ  
 付属ニヨリ諸仏ノ證誠ニシタカ  
 ヒテラロカナルワタクシノハカラヒ  
 ヲハト、メテコレラノユヘツヨキ  
 念仏ノ行ヲ信シツトメテ往生ヲハ

四オ

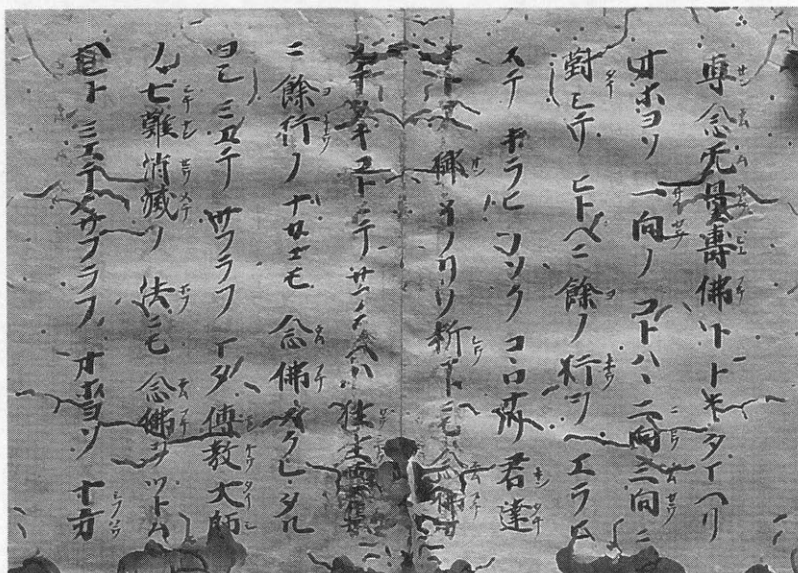


イノルヘシトマフスコトニテサフラフナリ  
 サレハ恵心ノ僧都ノ往生要集ニ往生  
 ノ業ハ念仏ヲ本トストマフシタルハ  
 コノコノナリイマハタゝ余行ヲ  
 トメタマヒテ一向に念仏ニナラセ

四ウ

タマフヘシ念仏ニトリテモ一向専修  
 ノ念仏カメテタキコトニテサフラフ  
 ナリソノムネハ三昧發得ノ善導  
 和尚ノ觀經ノ疏ニミエテサフラフ  
 シカノミナラス双卷經ニハ一向

五オ

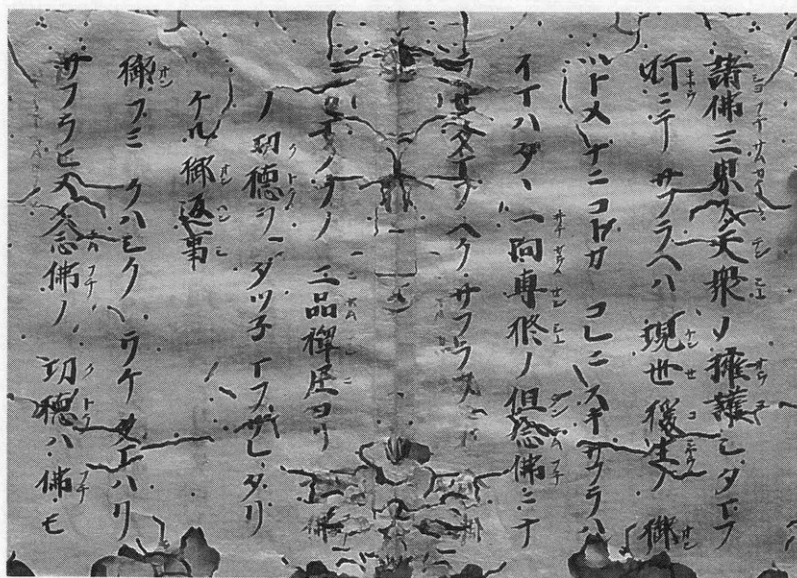


専念无量寿仏トトモタイヘリ  
 オホヨソ一向ノコトハニ向三向ニ  
 対シテヒトヘニ余ノ行ヲエラヒ  
 ステキラヒノソクコロナリ君達  
 ナトノ御イノリノ料ナトニモ念仏カ

五ウ

メテタキコトニテサフラヘハ往生要集  
 二余行ノナカニモ念仏スケタル  
 ヨシミエテサフラフマタ伝教大師  
 ノ七難消滅ノ法ニモ念仏ヲツトム  
 ヘシトミエテサフラフオホヨソ十方

六オ



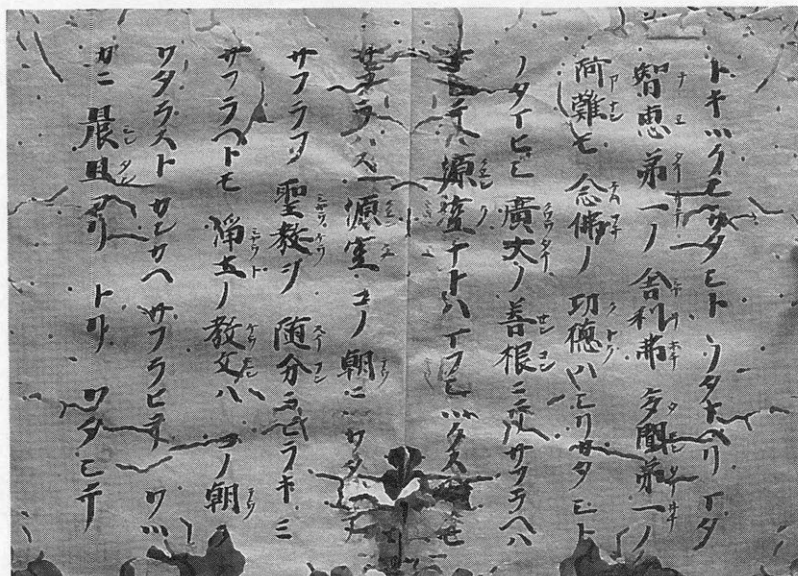
諸佛三界ノ天衆ノ擁護シタマフ  
 行ニテサフラヘハ現世後生ノ御  
 ツトメナニコトカコレニスキサフラハ□  
 イマハタ、一向専修ノ但念仏ニナ  
 ラセタマフヘクサフラフ

六ウ

カマクラノ二品禪尼ヨリ念仏  
 ノ功德ヲタツネマフサレタリ  
 ケル御返事  
 御フミクハシクウケタマハリ  
 サフラヒヌ念仏ノ功德ハ仏モ

七オ



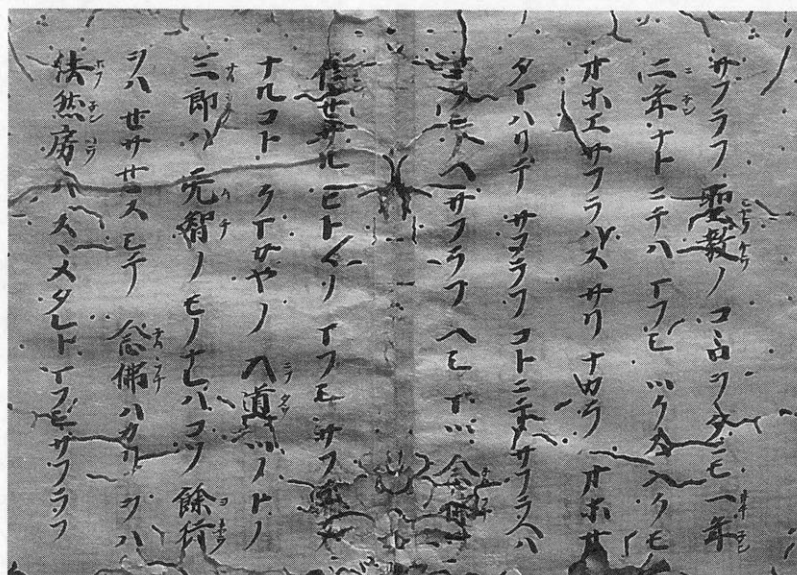


トキツクシカタシトノタマヘリマタ  
 智恵第一ノ舍利弗多聞第一ノ  
 阿難モ念仏ノ功德ハシリカタシト  
 ノタマヒシ広大ノ善根ニテサフラヘハ  
 マシテ源空ナトハマフシツクスヘ□モ」

七ウ

サフラハス源空コノ朝ニワタ□テ  
 サフラフ聖教ヲ随分ニヒラキミ  
 サフラヘトモ浄土ノ教文ハコノ朝□  
 ワタラストカンカヘサフラヒテワツ  
 カニ晨旦ヨリトリワタシテ」

八オ

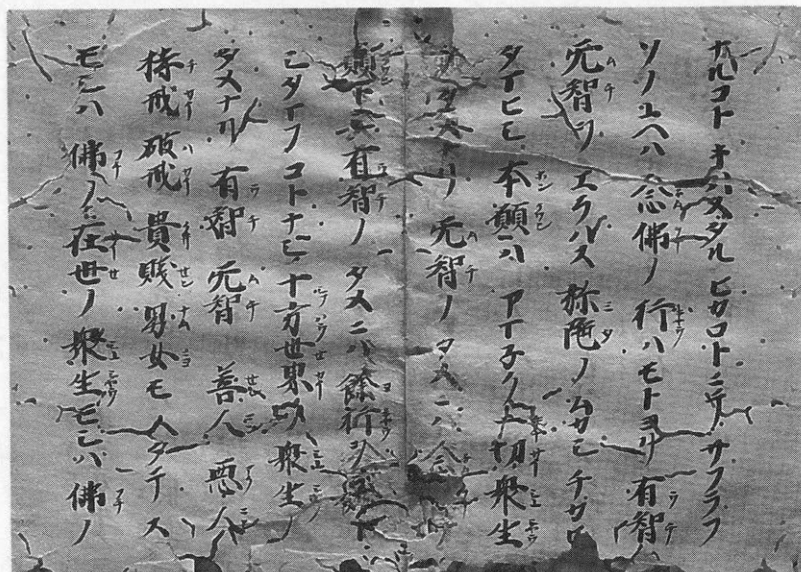


サフラフ聖教ノコロヲタニモ一年  
 ニ年ナトニテハマフシツクスヘクモ  
 オホエサフラハスサリナカラオホセ  
 タマハリテサフラフコトニテサフラハ  
 マフシノヘサフラフヘシマツ念仏ヲ

八ウ

信セサルヒトノマフシサフラフ  
 ナルコトクマカヤノ入道ツノトノ  
 三郎ハ无智ノモノナレハコソ余行  
 フハセサセスシテ念仏ハカリヲハ  
 法然房ハスメタレトマフシサフラフ

九オ



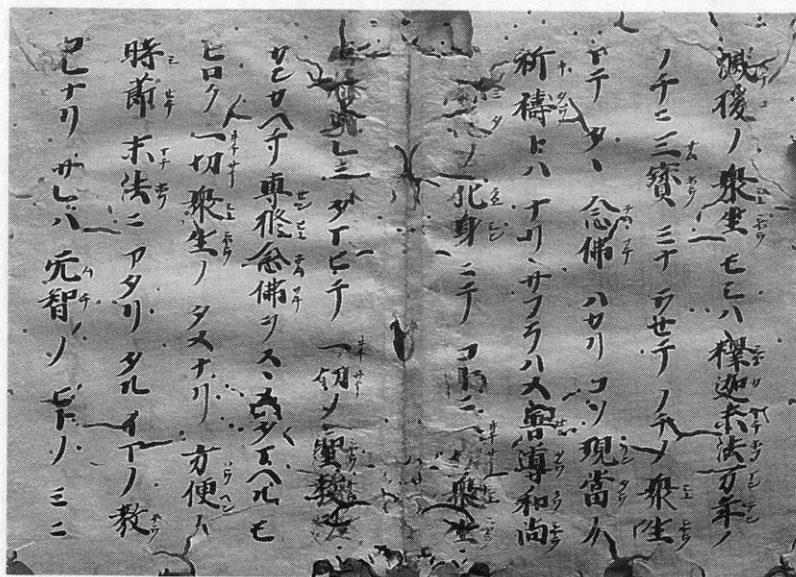
ナルコトキハメタルヒカコトニテサフラフ  
 ソノユヘハ念佛ノ行ハモトヨリ有智  
 无智ヲエラハス弥陀ノムカシチカヒ  
 タマヒシ本願ハアマネク一切衆生  
 ノタメナリ无智ノタメニハ念□ノ

九ウ

願トシ有智ノタメニハ余行ラ□ト  
 シタマフコトナシ十方世界ノ衆生ノ  
 タメナリ有智无智善人悪人  
 持戒破戒貴賤男女モヘタテス  
 モシハ仏ノ在世ノ衆生モシハ仏ノ

十オ



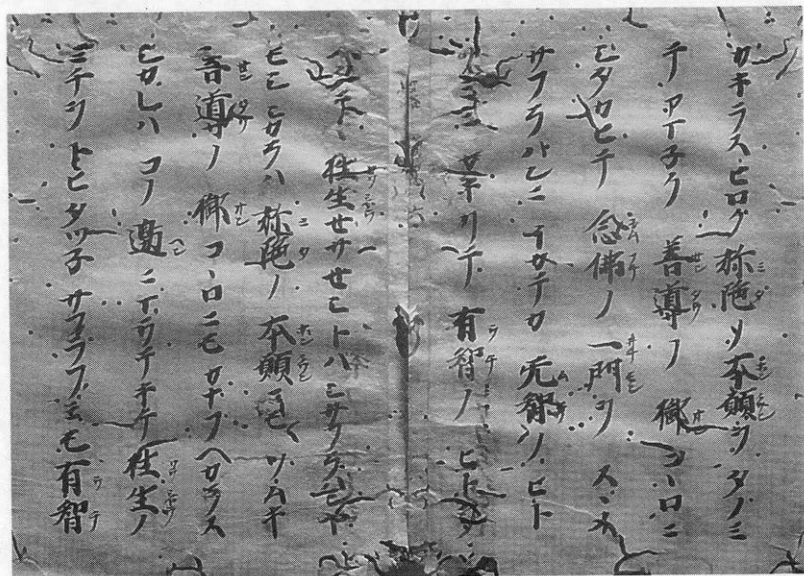


滅後ノ衆生モシハ釈迦末法万年ノ  
ノチニ三宝ミナウセテノチノ衆生  
マテタノ念仏ハカリコソ現當ノ  
祈禱トハナリサフラハメ善導和尚  
ハ弥陀ノ化身ニテコトニ一切衆生

十ウ

ヲ□□レミタマヒテ一切ノ聖教ヲ  
カンカヘテ専修念仏ラスメタマヘルモ  
ヒロク一切衆生ノタメナリ方便ノ  
時節末法ニアタリタリイマノ教  
コレナリサレハ无智ノヒトノミニ

十一オ



カキラスヒロク弥陀ノ本願ヲタノミ  
 テアマネク善導ノ御コヽロニ  
 シタカヒテ念仏ノ一門ヲスヽメ  
 サフラハンニイカテカ無智ノヒト  
 ノミニカキリテ有智ノヒトラ

十一ウ

ヘタテヽ往生セサセシトハシサフラハンヤ  
 モシシカラハ弥陀ノ本願ニモソムキ  
 善導ノ御コヽロニモカナフヘカラス  
 シカレハコノ辺ニマウテキテ往生ノ  
 ミチヲトヒタツネサフラフニモ有智

十二オ

八智ヲ論セスヒトニ專修念佛ヲ  
 云々入サフラフナリサヤウニ專修念佛  
 云々エフヒトハムレトハサヤウニヒトハサキ  
 シ世ニ念佛ニ昧得道ノ法門ヲキカ  
 ノ世ニチノ世ニヒトハサヤウニ  
 三惡道ニオツヘキモノハシカルヘクテ  
 サヤウニエフヒトハサフラフナリ  
 聖教ニヒトクミエテサフラフナリ  
 ヒトハサハチ修行スルコトアルヲ  
 ミテハ毒心ヲオコシ方便シテ

无智ヲ論セスヒトヘニ專修念佛ヲ  
 スメサフラフナリサヤウニ專修念佛  
 ラマフシトハメントツカマツルヒトハサキ  
 ノ世ニ念佛ニ昧得道ノ法門ヲキカ  
 □シテノチノ世ニマタサタメテ

十二ウ

□三惡道ニオツヘキモノハシカルヘクテ  
 サヤウニマフシサフラフナリソノユヘハ  
 聖教ニヒトクミエテサフラフナリ  
 シカレハサハチ修行スルコトアルヲ  
 ミテハ毒心ヲオコシ方便シテ

十三オ

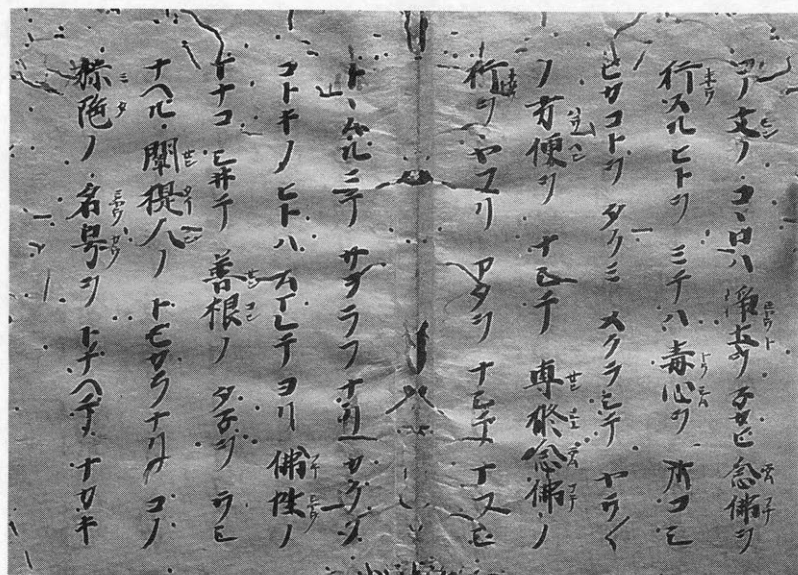
キホヒチ アタリ オス ヲタリ スト  
 キノ 生盲 聞提ノ トモヲ ハ  
 頓教ヲ 毀滅ヒチ ナラク 沈淪ム  
 大地 微塵劫又 超過ストモイマタ  
 三途ノ身ヲ ハナレンコトヲウヘカ  
 ストキタマヘリ  
 見有 修行 起瞋毒 方便 破壞 競生 怨  
 如此 生盲 聞提 輩 毀滅 頓教 永沈 淪  
 超過 大地 微塵 劫 未可 得離 三途 身  
 大眾 同心 皆懺悔 所有 破法 罪因 緣

十三ウ

キホヒテアタリナスカクノコト  
 キノ生盲聞提ノトモカラハ  
 頓教ヲ毀滅シテナカク沈淪ス  
 大地微塵劫ヲ超過ストモイマタ  
 三途ノ身ヲハナレンコトヲウヘカラ

十四オ

ストキタマヘリ  
 見有修行起瞋毒 方便破壞競生怨  
 如此生盲聞提輩 毀滅頓教永沈淪  
 超過大地微塵劫 未可得離三途身  
 大眾同心皆懺悔 所有破法罪因緣



コノ文ノコ、ロハ淨土ヲネカヒ念仏ヲ  
 行スルヒトヲミテハ毒心ヲオコシ  
 ヒカコトラタクミメクラシテヤウ、  
 ノ方便ヲナシテ專修念仏ノ  
 行ヲヤフリアタヲナシテマフシ、

十四ウ

トムルニテサフラフナリカクノ  
 コトキノヒトハムマレテヨリ仏性ノ  
 マナコシキテ善根ノタネヲウシ  
 ナヘル闍提人ノトモカラナリコノ  
 弥陀ノ名号ヲトナヘテナカキ、

十五オ



生死ヲナレチ 常住ノ極樂ニ往生  
 スヘケレトモ コノ教法ヲソシリホロ  
 ホシチ コノツミニヨリテナカク  
 三惡道ニシツムカクノコトキノヒトハ  
 大地微塵劫ヲスクレトモナカク  
 三途ノ身ヲハナレンコトアルヘカラスト  
 イフナリシカレハスナハチサヤウニ  
 ヒカコトラマフサンヒトラハカヘリテ  
 アハレミタマフヘキナリサホトノ罪人ノ  
 マフサンニヨリテ專修念仏ニ懈怠

十五ウ

生死ヲハナレテ常住ノ極樂ニ往生  
 スヘケレトモコノ教法ヲソシリホロ  
 ホシテコノツミニヨリテナカク  
 三惡道ニシツムカクノコトキノヒトハ  
 大地微塵劫ヲスクレトモナカク

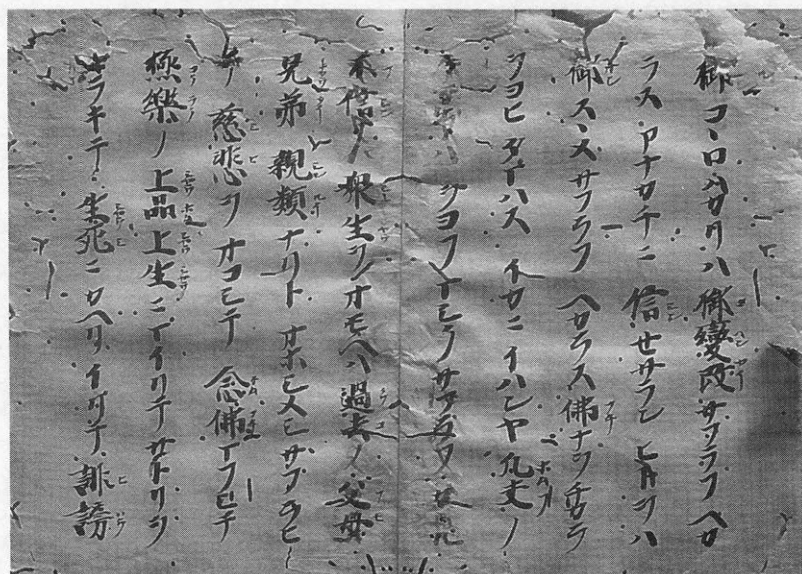
十六オ

三途ノ身ヲハナレンコトアルヘカラスト  
 イフナリシカレハスナハチサヤウニ  
 ヒカコトラマフサンヒトラハカヘリテ  
 アハレミタマフヘキナリサホトノ罪人ノ  
 マフサンニヨリテ專修念仏ニ懈怠

妙ナシ 念佛往生ニウタカヒヲナシ  
 不審ヲイダサセヒトハイフニカヒ  
 ナキコトニテコソサフラハメオホヨソ  
 弥陀ニ縁アサク往生トキイタ  
 ラヌモノハキケトモ信セス念佛  
 ヲモツヲミチハハラタテコエヲ  
 キテモイザリヲナヒチバヒキ  
 トラナリナトマフスハ經論ニモミエ  
 サルコトヲマフスナリ御コヽロヲ  
 エサセタマヒチイサニマフストモ

ヲナシ念佛往生ニウタカヒヲナシ  
 不審ヲイタサンヒトハイフニカヒ  
 ナキコトニテコソサフラハメオホヨソ  
 弥陀ニ縁アサク往生トキイタ  
 ラヌモノハキケトモ信セス念佛

ノモノヲミテハハラタテコエヲ  
 キテモイカリヲナシテアシキ  
 コトナリナトマフスハ經論ニモミエ  
 サルコトヲマフスナリ御コヽロヲ  
 エサセタマヒチイカニマフストモ



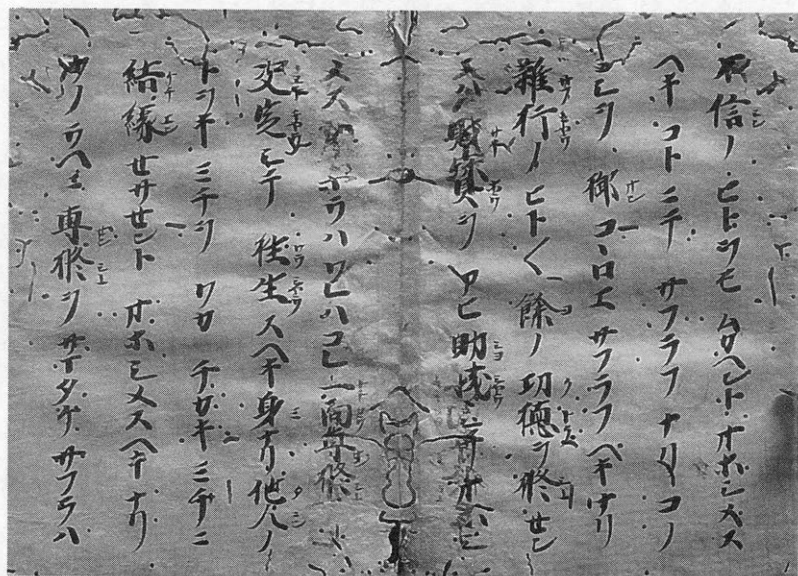
御コ、ロハカリハ御變改サフラフヘカ  
 ラスアナカチニ信セサランヒトヲハ  
 御ス、メサフラフヘカラス仏ナヲチカラ  
 フヨヒタマハスイカニイハンヤ凡夫ノ  
 チカラハヲヨフマシクサフラフカ、ル

十七ウ

不信ノ衆生ヲオモヘハ過去ノ父母  
 兄弟親類ナリトオホシメシサフラヒ  
 テ慈悲ヲオコシテ念仏マフシテ  
 極樂ノ上品上生ニマイリテサトリヲ  
 ヒラキテ生死ニカヘリイリテ誹謗

十八オ





不信ノヒトヲモムカヘントオホシメス

十八ウ

ヘキコトニテサフラフナリコノ

ヨシヲ御コゝロエサフラフヘキナリ

一 雑行ノヒトノ余ノ功德ヲ修セン

ニハ財宝ヲアヒ助成シテオホシ

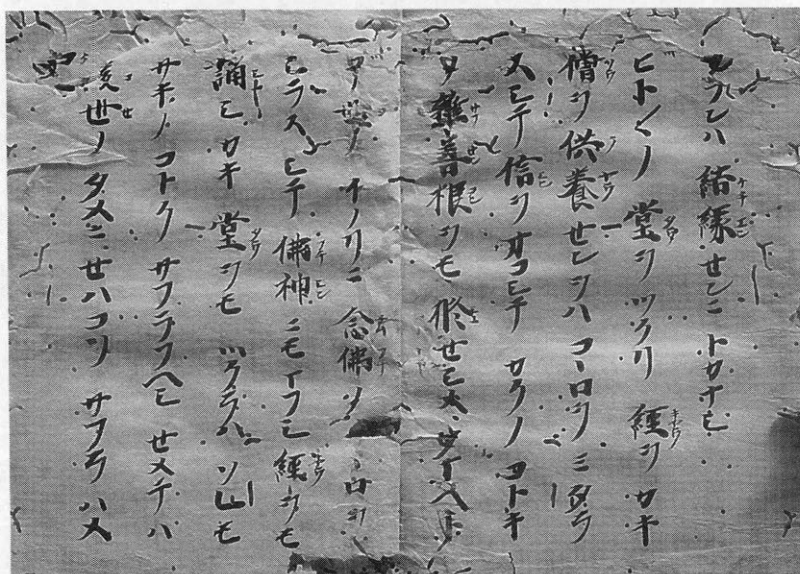
十九オ

メスヘキヤウハワレハコレ一向専修ニテ  
決定シテ往生スヘキ身ナリ他人ノ

トラキミチヲワカチカキミチニ

結縁セサセントオホシメスヘキナリ

ソノウヘニ専修ヲサマタケサフラハ

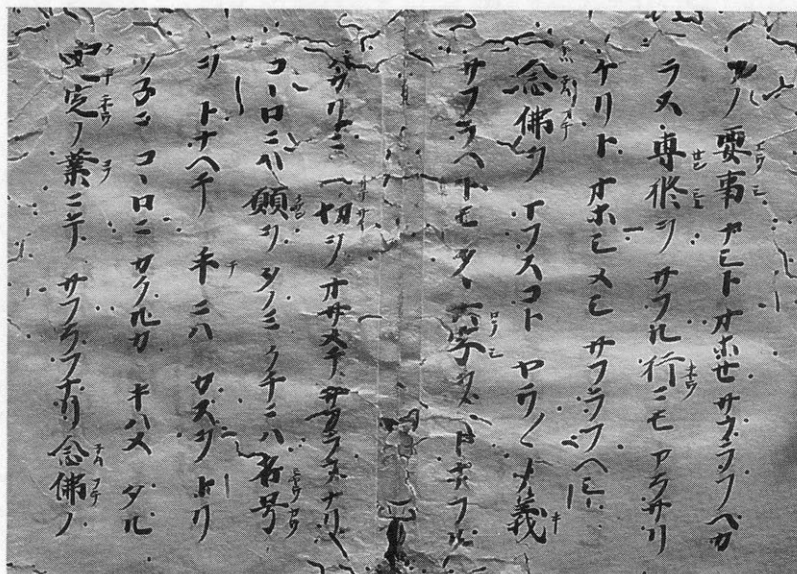


十九ウ

□ランハ結縁センニトカナシ  
一ヒトノ堂ヲツクリ経ヲカキ  
僧ヲ供養センヲハコノロミタラ  
スシテ信ヲオコシテカクノコトキ  
ノ雑善根ヲモ修セシメタマヘト

二十オ

一コノ世ノイノリニ念仏ノコノロラ  
シラスシテ仏神ニモマフシ経ヲモ  
誦シカキ堂ヲモツクラハソレモ  
サキノコトクサフラフヘシセメテハ  
後世ノタメニセハコソサフラハメ



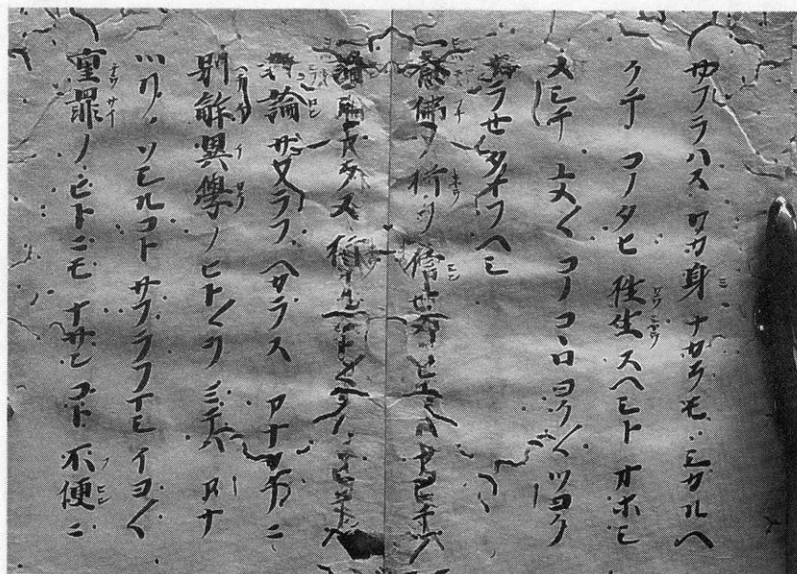
ソノ要事<sup>エウシ</sup>ナシトオホセサフラフヘカ  
 ラス専修<sup>センシュ</sup>ヲサフル行<sup>キヤウ</sup>ニモアラサリ  
 ケリトオホシメシサフラフヘシ  
 一<sup>□トツネムフチ</sup>念仏<sup>ネンブツ</sup>ヲマフスコトヤウノ義<sup>キ</sup>  
 サフラヘトモタ、六字<sup>ロクジ</sup>ヲトナフル

二十ウ

ハカリニ一切<sup>キチヤイ</sup>ヲオサメテサフラフナリ  
 コ、ロニハ願<sup>クワン</sup>ヲタノミクチニハ名号<sup>ミヤウカウ</sup>  
 ヲトナヘテ手<sup>テ</sup>ニハカスヲトリ  
 ツネニコ、ロニカクルカキハメタル  
 決定<sup>ケツギ</sup>ノ業<sup>ゴフ</sup>ニテサフラフナリ念仏<sup>ネンブツ</sup>ノ

二十一オ

イハモトヨリ 行住坐臥時處諸縁  
ヲエラハス身口ノ不淨ヲモキラ  
ハ又行ニテサフラハ樂行往生トハ  
マフシツタヘテサフラフナリタハ  
ソノナカニモコノロラキヨクシテ  
マフスヲハ第一ノ行トマフシサフラフ  
ナリタハ淨土ヲコノロニカクレハ  
心淨ノ行法ニテサフラフナリサヤウニ  
御スメサフラフヘシツネニマフサセ  
タマハンヲハトカクマフスヘキヤウモ



二十二ウ

サフラハスワカ身ナカラモシカルヘ  
クテコノタヒ往生スヘシトオホシ  
メシテユメノコノコロヨクノツヨク  
ナラセタマフヘシ  
一 念仏ノ行ヲ信セヌヒ□ニアヒテ

二十三オ

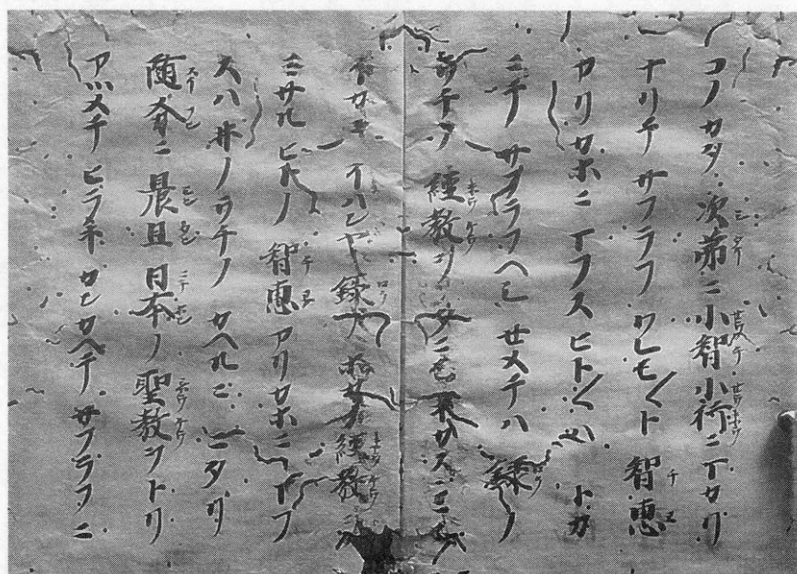
論シアラヌ行ノヒトノ二□□ヒテ  
執論サフラフヘカラスアナカチニ  
別解異學ノヒトノヲミテハアナ  
ツリソシルコトサフラフマシイヨク  
重罪ノヒトニモナサンコト不便ニ



サフラフ。オオニフ。ロニ極樂ヲ。サカヒ  
 念佛ヲ。エフサレ。ヒトヲハ早賤ノヒト  
 ナリトモ。父母師近ニモ。オトラス  
 オオニ人ヘ。今生ノ財寶。カモモ  
 老カサトモ。チカラヲ。オホク。又  
 老カサリ。オワラモ。不コニ。念佛  
 ヲ。ロフ。サ。サフラハレシハ。カケ  
 ス。メタイフヘク。サフラフ。コニ。称絶  
 如來ノ。御ミヤツカヘト。オオニ人ニ  
 サフラフヘ。裸迎如來。賊後ヨリ

サフラフオナシコヽロニ極楽ヲネカヒ  
念仏ヲマフサンヒトヲハ卑賤ノヒト  
ナリトモ父母師匠ニモオトラス  
オホシメスヘシ今生ノ財宝ノトモ  
シカランニモチカラクハヘタマフ」

ヘシサリナカラモスコシモ念仏ニ  
コヽロヲカケサフラハンヲハヨクノ  
スヽメタマフヘクサフラフコレ弥陀  
如來ノ御ミヤツカヘトオホシメシ  
サフラフヘシ釈迦如來滅後ヨリ」



コノカタ次<sup>シタイ</sup>第二<sup>セウチ</sup>小智<sup>セウキョウ</sup>小行<sup>セウキョウ</sup>ニマカリ  
 ナリテサフラフワレモくト智<sup>チ</sup>恵<sup>エ</sup>  
 アリカホニマフスヒトくハトカ  
 ニテサフラフヘシセメテハ録<sup>ロク</sup>ノ  
 ウチノ經<sup>キヤウ</sup>教<sup>ク</sup>ヲタニモキカスミ□

イカニイハンヤ録<sup>ロク</sup>ノホカノ經<sup>キヤウ</sup>教<sup>ク</sup>ヲ  
 ミサルヒトノ智<sup>チ</sup>恵<sup>エ</sup>アリカホニマフ  
 スハ井ノウチノカヘルニニタリ  
 随<sup>ズイ</sup>分<sup>ブン</sup>ニ晨<sup>シン</sup>旦<sup>タン</sup>日本<sup>ニッポン</sup>ノ聖<sup>セイ</sup>教<sup>キョウ</sup>ヲトリ  
 アツメテヒラキカンカヘテサフラフニ

念<sup>ナム</sup>佛<sup>ブツ</sup> 信<sup>シン</sup>セヌヒトハサキノ世<sup>ヨ</sup>ニ重<sup>オモシ</sup>罪<sup>ザイ</sup>

シツクリチ地獄<sup>チコク</sup>ニヒサシクアリ

チツタ地獄<sup>チコク</sup>ヘハヤクカヘルヘキ

ヒトナリタトヒ千佛<sup>センブツ</sup>世<sup>ヨ</sup>ニイデ

念<sup>ナム</sup>佛<sup>ブツ</sup> ハツタラ往<sup>ウ</sup>生<sup>シヨウ</sup>ノ業<sup>ゴフ</sup>ニアラ

スト御<sup>ミコ</sup>ヘタラトモ信<sup>シン</sup>スヘカラス

コレハ釈迦<sup>シヤカ</sup>如来<sup>ニライ</sup>ヨリハシメテ恒河沙<sup>コウカシャ</sup>

ヨシハ釋迦<sup>シヤカ</sup>如来<sup>ニライ</sup>ヨリハシメテ恒河沙<sup>コウカシャ</sup>

ノ佛<sup>ブツ</sup>ノ證<sup>シヨウ</sup>誠<sup>マコト</sup>シタマヘルコトナレハト

オホシメシテ御<sup>ミコ</sup>コハロサシ金剛<sup>コンカウ</sup>ヨリ

モカタクシテ一向<sup>イツウ</sup>専修<sup>センシュ</sup>ハ御<sup>ミコ</sup>

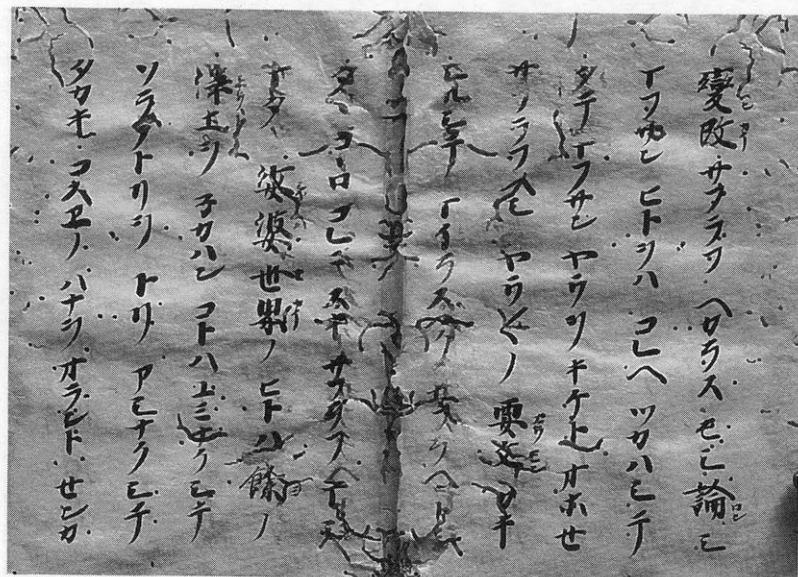
二十五ウ

念<sup>ナム</sup>仏<sup>ブツ</sup> 信<sup>シン</sup>セヌヒトハサキノ世<sup>ヨ</sup>ニ重<sup>オモシ</sup>罪<sup>ザイ</sup>  
ヲツクリテ地獄<sup>チコク</sup>ニヒサシクアリ  
テマタ地獄<sup>チコク</sup>ヘハヤクカヘルヘキ  
ヒトナリタトヒ千仏<sup>センブツ</sup>世<sup>ヨ</sup>ニイデ  
念<sup>ナム</sup>仏<sup>ブツ</sup> ハマタク往<sup>ウ</sup>生<sup>シヨウ</sup>ノ業<sup>ゴフ</sup>ニアラ

二十六オ

ストヲシヘタマフトモ信<sup>シン</sup>スヘカラス  
コレハ釈迦<sup>シヤカ</sup>如来<sup>ニライ</sup>ヨリハシメテ恒河沙<sup>コウカシャ</sup>  
ノ仏<sup>ブツ</sup>ノ證<sup>シヨウ</sup>誠<sup>マコト</sup>シタマヘルコトナレハト  
オホシメシテ御<sup>ミコ</sup>コハロサシ金剛<sup>コンカウ</sup>ヨリ  
モカタクシテ一向<sup>イツウ</sup>専修<sup>センシュ</sup>ハ御<sup>ミコ</sup>



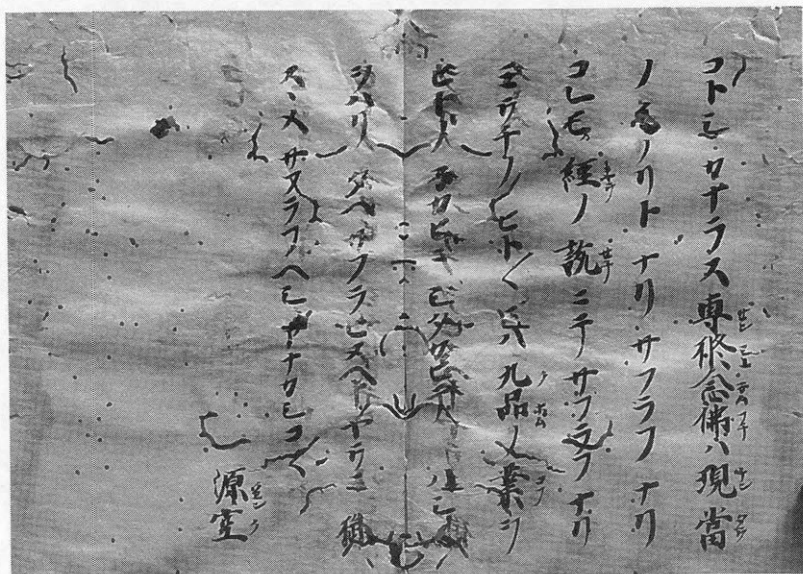


變改<sup>ヘンカイ</sup>サフラフヘカラスモシ論<sup>ロ</sup>シ  
 マフサンヒトヲハコレヘツカハシテ  
 タテマフサンヤウヲキケトオホセ  
 サフラフヘシヤウノ要文<sup>ヨウモン</sup>カキ  
 シルシテマイラスヘクサフラヘト□

二十六ウ

タハコハコレニスキサフラフマシ  
 マタ娑婆<sup>シャバ</sup>世界<sup>セカイ</sup>ノヒトハ余<sup>ヨ</sup>ノ  
 淨土<sup>シャウト</sup>ヲネカハンコトハユミナクシテ  
 ソラノトリヲトリアシナクシテ  
 タカキコスエノハナヲオラントセンカ

二十七オ



コトシカナラス専修念仏ハ現当

二十七ウ

ノイノリトナリサフラフナリ

コレモ經ノ説ニテサフラフナリ

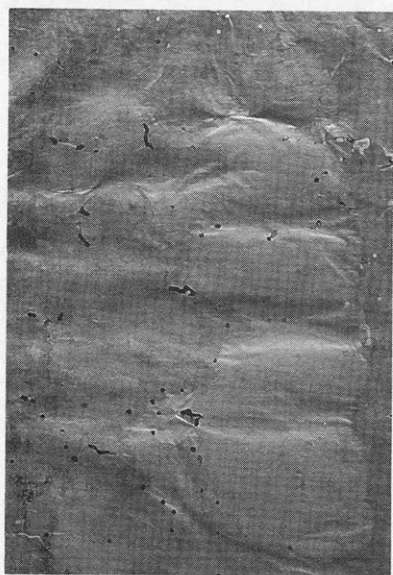
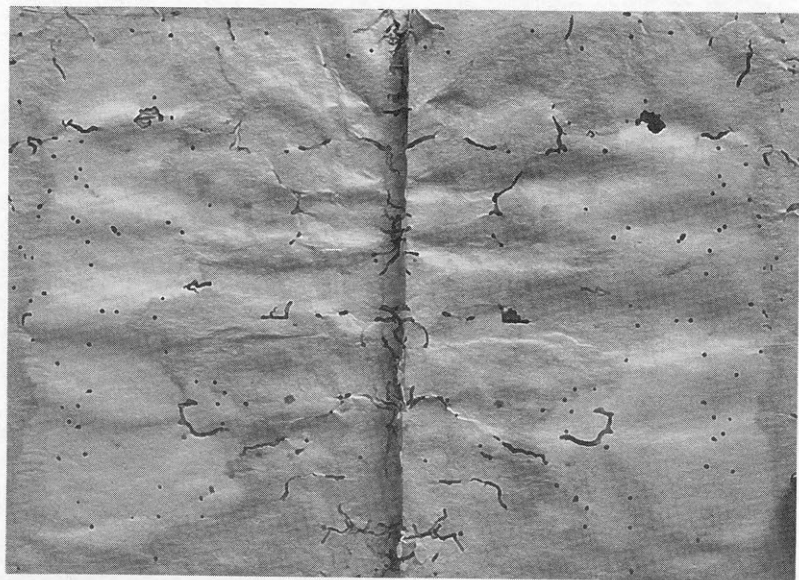
ミウチノヒトノ二ハ九品ノ業ヲ

ヒトノネカヒニシタカヒテハシ□

ヲハリタヘサフラヒヌヘキヤウニ御  
スゝメサフラフヘシアナカシコノ

二十八オ

源空



裏表紙

